

「住友理工 第3回学生小論文アワード」表彰式開催

～152作品から選ばれた6作品の各賞を発表～

住友理工株式会社（本社：名古屋市中村区、代表取締役 社長：松井徹）は7月15日（土）、「住友理工 第3回学生小論文アワード」の表彰式を開催し、最優秀次席に佐々木真琴さん（群馬県立女子大学 国際コミュニケーション学部3年）の作品で「東北に寄り添い、東北で学ぶ～課題先進国での新しいイノベーションのカタチ～」と、福田紗千さん（神戸大学 経営学部4年）の「戦略的課題解決によって世界中のみんなを幸せに！そんな企業で私は働きたい～Strategic Solution to Social Problems through Business 3.0～」の2作品を選び、表彰状と副賞として賞金50万円が、代表取締役 副社長の尾崎俊彦より手渡されました。また、優秀賞として4作品が選ばれ、表彰状と副賞賞金10万円が授与されました。最優秀賞は該当者がありませんでした。

本アワードは、2015年よりスタートし、これまでに第1回：50作品、第2回：106作品、第3回（今回）：152作品の、延べ308作品の応募がありました。

宮城県出身の佐々木さんは、受賞後のスピーチで「自分が選ばれるなんて思わなかったので、うれしくてたまりません！」と受賞を喜び、「企業が東北で企業価値を上げる活動をすることが、東日本震災被災地の支援につながると良いと思う」と述べました。福田さんは「社会課題解決が、企業にとってもっと社会的価値あるものにできないかと思い、提案した。今後社会人として働く上で、自分の提唱を実践しつつ社会的インパクトを与えられるようになりたい」と語りました。

審査委員長の河口真理子氏（株式会社大和総研 調査本部 主席研究員）からは、今回のテーマ「21世紀型のイノベーションはどうあるべきか？—こんな会社で働きたい」について、「就労経験のない中、イノベーションと働き方という経験したことのない二つのテーマについて論じる難しさに、多くの学生が果敢にチャレンジしてくれた」と学生への労いの言葉がありました。

村上憲郎氏（元Google日本法人代表取締役社長）による基調講演に続いて、村上氏と受賞した学生6名が、今回の論文テーマや働き方についてトークセッションを行いました。学生たちは村上氏の鋭い質問にも臆することなく、白熱した議論が展開されました。

<「住友理工 第3回学生小論文アワード」各賞受賞者一覧>

賞	氏名 学校・学部・学年	論文タイトル
最優秀次席	佐々木 真琴 群馬県立女子大学 国際コミュニケーション学部 3年	東北に寄り添い、東北で学ぶ～課題先進国での新しいイノベーションのカタチ～
最優秀次席	福田 紗千 神戸大学 経営学部 4年	戦略的社会課題解決によって世界中のみんなを幸せに！そんな企業で私は働きたい～Strategic Solution to Social Problems through Business 3.0～
優秀賞	大三 智章 立命館大学 経営学部 2年	全ての社員がイノベーションの開発者となり得る企業-「全社イノベーション」の提案-
優秀賞	高橋 愛実 中央大学 商学部 4年	常識を覆す「公私混同型制度」を採用する企業で働きたい！ ～現実と理想のギャップ解消を目指して～
優秀賞	三輪 大貴・齋藤 麻奈・岸 真梨奈 法政大学 人間環境学部 3年	日本企業よ、イノベーションの原点となる経営構想力を取り戻せ！
優秀賞	両角 光平・杉浦 響也・須藤 達也・ 原田 達也・山口 亮 東京農工大 工学部 2年	21世紀の働き方改革-科学と経営学に基づくイノベーションの提案-



以上

--- 住友理工について ---

住友理工は1929年に創業し、名古屋市市中村区に本社を置くモノづくり企業です。2014年に東海ゴム工業から社名を変更しました。自動車分野では、振動を制御する世界トップシェアの防振ゴムのほか、ゴム・樹脂ホースや、ウレタン製の制動音品・内装品を製造。自動車部品の開発で培った技術を生かし、エレクトロニクス、インフラ、住環境・健康介護の各分野でも事業を展開しています。23ヶ国106拠点に広がるグローバルネットワークを活用して、世界中の人々に安全・安心・快適を提供する“Global Excellent Manufacturing Company”を目指しています。

リリースに関するお問い合わせ先
住友理工株式会社

広報部 / 〒450-6316 名古屋市市中村区名駅一丁目1番1号 JPタワー名古屋

tel 052-571-0259 e-mail kouhou@jp.sumitomoriko.com <http://www.sumitomoriko.co.jp/>